



2018年9月、グローバルな世界をめいっぱい味わえる体験型英語学習施設が東京・青海に誕生します。一歩足を踏み入れれば、そこはオール・イングリッシュの世界。小学生から高校生までさまざまなレベルの児童・生徒が、「英語で伝わる感動」を体験できます。

9月6日のオープンに先駆け、内覧会に参加したLLセンタースタッフはTGGとはいったいどんな施設なのか、レポートします。

## ■東京の英語村、TGGとは？

TGGは、東京都教育委員会と(株)TOKYO GLOBAL GATEWAYが提供する体験型の英語学習施設だ。海外での生活疑似体験や英語での共同作業などを通して、子どもたちは日頃学んだ英語を実際に使う体験ができる。

1階のエントランスから3階までのおよそ80教室分(総面積約7,000㎡)の広々とした空間は、大きく2エリアに分かれる。英語「を」活用するアトラクション・エリアと英語「で」学ぶアクティブイマージョン・エリアだ。

## エリア1 英語「を」活用する!アトラクション・エリア

ここでは、飛行機の機内、レストラン、ホテル、お土産屋など、まるで海外にいるかのようなリアルな雰囲気の中、英語「を」使いながら与えられたミッションを達成していく。例えば、レストランでは「ミッションカード」に示されたメニューを注文したり、ホテルではチェックインや朝食の時間の確認といった英語でのコミュニケーションに挑戦する。一つのブースで15分程度体験でき、「ミッションカード」の“課題”をクリアしていくたびに、各ブース特製のスタンプがもらえる。

### ◀リアルな環境を再現したブース▶



レストラン



飛行機機内

中高生の中・上級者なら、「キャンパスゾーン」の、海外の大学施設を再現したブースで学生生活体験をしてもよいだろう。「TGG University」の学生窓口で履修登録したり、留学カウンターで相談したり、留学生になったつもりで英語でのやりとりに挑戦してみよう。



スクールオフィス

## エリア2 英語「で」学ぶ!アクティブイマージョン・エリア

ここでは、グループでの実験やプロジェクト企画等の共同作業を通して、英語「で」専門知識が身につくプログラムを体験できる。

グループでの3~5分間のコマ撮りアニメーションの作成や、プログラミング、ニューススタジオでのキャスター体験、茶道、料理、工作など、専門のスペシャリスト(イングリッシュスピーカー講師)が指南してくれるので、知識だけでなく、英語「で」考えたり、発表したりといったコミュニケーション能力の向上が期待できる。

例えば、英語「で」料理を学ぶプログラムでは、スペシャリストは児童・生徒がわかりやすいように必要な単語や文法のサポートを入れつつ、英語で交流しながら料理を学んでいく。



メディアラボ

## ■対象/コース設定、他

- 対象年齢  
小学生・中学生・高校生
- グループ分け  
レベル別に8人1グループとしてグループごとにプログラムに参加する。
- エージェント  
各グループに1人のエージェント(イングリッシュスピーカー)が入場時から施設を出る時まで付き添い、サポートする。  
エージェントは、メンバー同士でも英語で話しやすい環境になるよう働きかけてくれ、プログラム中はずっと英語漬けの環境になるよう手助けしてくれる。
- コース設定  
学校向け:1日コースまたは半日コース(※)  
60分を「1セッション」として、半日コースの場合は2セッション、1日コースの場合は4セッション分を2つのエリアから選ぶ。  
(※)宿泊コースは要相談  
一般向け:学校向けコースに加えて、留学体験プログラムやアトラクションエリアから5つの生活シーンを選ぶプログラムもある。

▶その他料金等、詳しくはTGGのHP参照

TGG 検索

(https://tokyo-global-gateway.com/)



## ◆◆ LLセンタースタッフより ◆◆

施設はきれいでひろく、プログラム内容はもちろん、子どもたちへのケアもよく考えられているように感じました。「えっ!こんなビルの中に?!」とはじめは意外に思いましたが、中は外国に降り立ったような疑似空間が広がり、気分を盛り上げてくれます。島国である日本に暮らす私たちは、外国人居住者や旅行者が増えたとはいえ、まだまだ英語を使う機会が多くはありません。私たち日本人の英語学習に足りないのは「実践の場」だといわれています。リアルな環境、場面で実際に英語を使う体験は、日頃の学習成果を形に表すことができるだけでなく、それがまたその後の英語学習意欲にもつながることが期待できるでしょう。すでに申込が殺到しているようですが、機会をみつけてこういった施設に足をのばしてみたいかでしょうか?

